

# 第6回 川崎市多摩川プラン推進会議

## 議事要旨

■開催日時：2010年（平成22年）3月3日（水）15：00～17：10

■開催場所：川崎市役所第3庁舎18階大会議室

### ■出席者（敬称略）

委員長	進士 五十八	東京農業大学 教授
委員	青木 昌夫	公募
委員	亀田 多喜	公募
委員	櫻木 進	公募
委員	目黒 孝哉	味の素株式会社
委員	元永 秀	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所 所長
委員	安原 晃紀	公募
委員	山道 省三	NPO法人多摩川センター代表理事

### ■議事要旨

#### 1. 開会

#### 2. 自己紹介

#### 3. 議事 ー川崎市多摩川プランの推進についてー

- (1) 2009年度の事業報告
- (2) 3年間の取組報告
- (3) 課題の抽出
- (4) これからの多摩川の方向性
- (5) 2010年度の予定

#### 4. 意見交換

#### 「議事 ー川崎市多摩川プランの推進についてー」の意見交換

（櫻木委員）

- ・ 資料について、せっかくいい資料を作っていたがカラーだとメモが書けない。白黒の方が良いと思う。
- ・ 川崎側や、最近は小杉周辺にもブルーハウスが多くなってきているが、どうしたらいいのだろうかと思う。
- ・ 趣味の写真仲間の中で、源流から河口まで多摩川が今どうなっているか、何で今こうなのかという、社会性を含めた景色を撮ったらいいのではと言われており、これからやってみようかという話が出ている。
- ・ 菅町会では、大々的に多摩川を利用して防災訓練などをやっており、そういうときに

は人が多摩川に集まるが、それ以外のときに皆さんがいかに多摩川を身近に感じているだろうか。

- ・ 昔の小学校3年生に、自分が小学校3年生のころの菅の状況、遊びの状況、川の状況などを話す機会があったが、昔と今では多摩川や遊びに対して全然感じ方が違うことに驚いた。このような状況では、今 NPO 法人さんがやっている市民主体のいろいろな活動などは今後あまり出てこないのではないかと思ってしまう。
- ・ 稲田堤の桜は、明治 43 年に大水害が起き、堤防が直った記念に当時の菅村の有志が 250 本集めて植えたものであるが、今桜は行政が植えて管理するようになっている。この報告書をもてもそうだが、いろいろやることが多くて大変だなと思った。

(進士委員長)

- ・ 櫻木さんの話は、多摩川の今と昔という、時間軸をもたせるともっと立体的になるということではないか。インタープリターというか、昔のことをわかっている人が直接昔の話をするというのはいいと思う。
- ・ 学校は今とてもガードが固いが一方で地域の教育力も求めており、地域の昔を知っている人に語ってもらい子供たちを教育するという方針は出ている。しかし、話がしたいからといって突然言ったり個人で行ってもダメで、NPO 法人などを作り教育委員会を通じて行うことになる。是非そういう組織を作って実行して欲しい。
- ・ 先ほど事務局が丁寧に説明してくれたけれども、これを見ても、やることがいっぱいあって大変だなあと印象になってしまう。よく言えば褒めてあげたいし悪く言えばたくさんありすぎて何をやっているかわからない。しかしこういう話を聞いた人たちが、こうすればもっと違うことが出来るのではないかという提案を出し合って、市はその提案を受け入れて実際に動かしていく、ということに繋げるとこの推進会議は意味があると思う。
- ・ 桜の話も稲田堤と同じようなところが日本中どこにでもある。昔は有志で行っていたり、あるいは植えた人の名前を石碑に入れて、管理も行っていた。これから国土交通省によりスーパー堤防が出来、桜を植える場所ができるのでそこに市が桜を植えるということだが、植え方を考えるとき櫻木さんがリーダーになってはどうか。
- ・ 桜の種類はソメイヨシノ一色にしないほうが良い。ソメイヨシノだけだと同じように盛り上がって同じ様に散る。日本の名所はほとんどがソメイヨシノである。みんなどこも一緒。そうではなく、永続的に花が咲くよう違う種類を植えたらどうだろうか。足羽川では 25 種類くらいの桜を植えたが、そうすると必ず花の咲く時期がずれるし、派手ではないがいろいろな種類の花が咲く。新しい環境の時代の桜の名所だと思っている。若い木も老木も混ぜて植えているので、あと 5~6 年もすれば落ち着くと思う。例えばそういう新しい、生物多様性の時代の桜の植え方をして、そういう議論をしたい。桜の種類も何十種類もあるので、例えば、浅川の試験場の見学会を開いて、そこに市民と一緒にいき説明を聞き、みんなで選んでお金を出し合って、みんなで植える。そうやって物語をつくらないと、ただ市役所がやるだけになってしまう。
- ・ 写真の話もいいですね。多摩川を盛り上げるためにも、多摩川写真展や写真集の発行

などを是非行って欲しい。例えば夜のコンビナートの写真と多摩川の写真などをセットにして、川崎の風景ということで写真集を作ったり、巡回展をやったりするのも良いと思う。

- 写真の愛好家は写真から入っていただく、桜の好きな人は桜から入っていくというようにして、舞台を作っていくといい。
- 今、市がやるべきことは、地図、サインの設置とか、誰もが行きたいと思ったときに、市民がアイデアを持ったときにすっと行けるようにすること。市がやることと市民がやることを分けないといけない。ベースをつくるのは市の仕事で、いろいろなアイデアを元に行うのは市民がやらないと、市民がお客さんになってしまう。お客さんというのは面白くなく、何かを主体的にやった、やり遂げたという達成感が得られない。これから事業やるときにはなるべくその仕分けを行い、舞台づくりは市が、上で演じるのは市民という風にしなければならない。市民といっても 140 万もいるのだから、リーダーがいて、リーダーになる人にそういう情報を提供・サポートして、その人がグループを作り上げるべきである。

#### (青木委員)

- 着々とプランが進んでいると思うので良いと思うが、市民に伝わっていないことが多いと思う。こんなふうに変わってきたんだよという情報を全体に伝える工夫が必要ではないだろうか。
- 親子の環境学習ということで、干潟での生物観察や等々力緑地の魚らん川あたりで水質検査等を行っているが、参加した親子が非常に喜んでいて、今までは自然に関心なかった子が、例えば台所の水の使い方とか、身近なところにも関心を持つようになったという。こういうことが大事だと思う。21 ページにも市民参加による生物調査が載っているが、こういうのをもっと大々的に行うとこれを通してもっと多摩川に関心を持つ人がでてくるのかなと思う。
- 古老の話だが、どう話をしたらいいのかわからないこともあるので、もっと学校教育の中にも入っていけるようなシステムを作っていけたらよいのではないか。
- せっかくいい環境をつくっても、ブルーテントがあると行きにくくなってしまう。いろいろ難しい面はあるとは思いますが何とかできないだろうか。
- 全体的にはプランは進んでいると思う。行政がいろいろやっているのだから、われわれ市民のほうも積極的に進めていく必要があるのかなと思った。

#### (進士委員長)

- せっかくいろいろやっているのに見えないということではダメなので、見せる方法を考えなければいけないと思う。例えば渡し場跡の碑も一本一本では目立たないが、設置済みの 11 本が並んでいるとインパクトがある。設置済みの 11 本の写真を撮ってきて並べて、ホームページに載せたり新聞に投げ込むなど、PR の仕方を考えてみてもよいのでは。
- PR という意味では、全体的に少しずつ整備をするのか、あるエリアを重点的に整備す

るのかなど、お金の使い方を考えるのもポイントかもしれない。

- ・ それから教育との関係だが、今教育委員会とはどのくらい交流を図っているか。

#### (事務局)

- ・ 教育委員会を通してよりも、学校の個々の単位で交流している。
- ・ 環境教育の資料を各小学校に配ったが、それは学校の校長会を通して事業説明をして、配布させてもらった。

#### (進士委員長)

- ・ 校長会の上には教育委員会があるわけだし、川崎教育の中に多摩川教育を大方針として位置づけてもらうのはどうか。今、世田谷の場合はエコスクールというのが全校指定になっている。昔はモデル校として指定し、今では全校になっている。市全体で方針を立てるといい。下敷き(アユマップⅡ)も全員には行きわたらないとのことだが、例えば、多摩川教育プログラムというものがあって、動植物、水質から安全対策まで一通りのカリキュラムを整備しておいて、講師はここにいる方々を派遣、プログラムも初級から上級まで3種類くらい整備して、これを採用したところには資料を子供に渡すとか、そういうふうには何かやらないと推進しない。
- ・ 多摩川プランにも「川崎っ子」という教育の体系を入れてあるが、それは子供の頃からちゃんと知ってもらい、川崎で生まれた子は多摩川をよく知って学んで育つというのがということが大きいテーマだった。多摩川は非常に重要な教育のフィールドだ。世田谷のエコスクールは1校あたりの予算は20万円程度である。学校にとって20万円というのは貴重である。そのくらいの予算をつけて、例えばモデル校をセットするとかモデルカリキュラムを作って講師を派遣するなどする。その成果を作文にしてもいいし、絵にしてもいいし、理科の場合は多摩川の生物ということで実験、調査発表をしてもらう。河原に咲く植物などでも良い。理科離れと言われているなか、そういう意味でも大きく寄与するのではないか。それを多摩川教育賞や川崎っ子賞などとして賞金を出してあげれば熱心な人・校長は参加すると思う。
- ・ サインなど、ベースはだいぶ出来てきたようだから、お二人の話を聞いて、今回は教育、特に学校にターゲットを絞って行ったらどうか。プランを作ったときはだいぶ盛り上がったが、プランが出来上がってしまったらあとは多摩川施策推進課がやるのでは意味がない。多摩川学の子供版や今度できる3校目の水辺の楽校でも連動できると思う。

#### (山道委員)

- ・ 総括的な印象として、課題から方向性までの連動性というか戦略が見えなくて、極めて表層的な、イベントをやるとかそういうことしか見えないので、もう少し考えたほうがいいかなと思った。
- ・ 環境教育の話があったが、情報収集と人材育成と調査は一緒だと思う。個々に考えるのではなくて、どのように情報をつめてどのように人材を育成してどのように伝えていくかを戦略としてもっていく必要があると感じた。

- ・ 環境教育に関して、参加者数などの数値目標を NPO 側に与えるというのは、NPO としては非常に困る。先ほどの説明で、環境教育などの参加者数が今年度実績 750 件くらいということだったが、これを何人の人間でやっているかというのはわからないが大変なことだ。参加者数を増やすときには講師の人間も増やさなければとても対応はできない。その辺りは戦略の中で、サポート体制も含めて議論できれば将来につながると思う。
- ・ 多摩川プランの実績としてイベントやコンサートが多いが、これが将来のストックになっていくかは少し疑問である。元々はエコミュージアムという概念があったと思う。先ほどのアユや桜の話もそうだが、なぜ多摩川にアユなのか、なぜ桜は大事なのかというものが見えてこない。そういう歴史的な背景は大事だと思うので、これらを含めてもっと伝えていくと良い。
- ・ せっかく人が多摩川に集まってくるのだから、基本的な調査を継続的に行うことが大事だと思う。市民の目線でいいと思うが、例えば定点で写真を撮っていくとか、写真集を出すのでもいいと思うが、情報をストックしていくのが大事である。観察会をただやるのではなく、情報をストックしていくということが、今後テキストを編集したりするときに非常に重要になってくると思うし、将来の資産・遺産になってくると思う。
- ・ 市民で出来ないこともいっぱいあるが、市民でしか出来ないこともいっぱいある。市民でしかできないことをイベント等と併せて出来たらよい。

(進士委員長)

- ・ 昔、京浜河川事務所が多摩川八景を作った。それと同じポイントで櫻木さんたちが毎年写真を撮るのはどうだろうか。良い変化なのか悪い変化なのかを定点観測する。そういうことをやるととうきゅう環境浄化財団などから助成金ももらえるし良いのでは。
- ・ 大都市圏に川があることの意味は、川そのものは大きくは変化しないが都市は大きく変化していくこと。都市が変化するからこそ変わらない川があることが大事なので、その両方向を対比して見られるようなビジュアルな情報を市民に提供することが大事だと思う。都市の発展が大事な発展なのか困ったことなのかもわかるのではないか。

(目黒委員)

- ・ 多摩川に関する情報は、基本的に市のホームページなどを見ればいろいろ出ているし、水辺の楽校のことも国土交通省のページに出ているので、興味のある人はいろいろ引き出せると思うが、興味のない人にとってはなかなか伝わらず新聞などに取り上げられたときに、知るくらいだと思う。
- ・ 一番良く見るのが通勤のときに通る JR 川崎駅のビジョンなので、これを活用してはどうだろうか。
- ・ 私は今日企業委員ということで来ているが、多摩川に接する企業とはどこまでなのだろうか。臨海部は東京湾ということになるし、大師橋あたりまでなのかなという感じがする。そうすると多摩川に接する企業も限られた企業になってしまうので、河口域

の企業も巻き込めたらいろいろな企業があつてよいと思う。川崎市にある企業ということでいろいろお願いされることも多いが、行政もたくさんあるので、どうしても絞っていかざるをえない。協賛をしたいと思つてもなかなかすべてに協力はできないというのが現実であるので、広範囲で巻き込めたらよいと思う。

- ・ 多摩川関連のイベントに参加したが、ベテランの方が主役で活動されていると思う。世代交代を考える中で、学校教育の中でお父さん・お母さんを巻き込んでいけるのがあるのではないかと。活動団体も、世代交代を進めるわけではないが、今後は世代交代をしていかないと続かないのではないかと。企業のボランティアなどもそうだが、特に20代の参加がなかなか難しいなと思う。
- ・ 去年は駅からハイクというJRのイベントがあり、それには協賛という形で参加したが、一企業が何かを行うのは難しい。
- ・ サイクリングコースやマラソンコースなどは、朝、昼、晩・夜と利用されている。しかし夜は非常に真っ暗なところもあるし、防犯上どうなのだろうと思うこともある。昼の顔と夜の顔は全く違い、夜になると不届きものがたくさんできていて、いろいろなものを置いていく、花火などいろんな遊びをしていく。
- ・ 我々のいる鈴木町あたりはアシが生えており、その後ろには、先ほどから何度か話にでたがブルーテントやゴミが多い。特に水際のところにはゴミが非常に多い。一部の人間がやったことが、自分のところで取り上げられてしまうというのは非常に残念だと思う。こういうところも、学校教育がしっかりしていれば、どうして水辺でゴミを捨ててはいけないのかということにも繋がってくると思う。
- ・ 今後我々がやりたいと思つていることだが、マラソン大会は行われているのでハイキングをやりたいと考えている。ある地点から干潟までのハイキングなどを行ったときに、我々は食品会社なので、中継点として補給などで協力できるかなと思う。
- ・ (市で)いろいろやられていることについては、我々も情報提供していきたいと思う。やったことを伝えていかないと、横長い川崎市の中で多摩川に出て行くということはあるのかと思うが、情報が発信されていけば来るのではないかと。また、スポーツをする人は来るが、しない人は来ないということになってしまうと思うので、緑を増やすということが施策の中に掲げられているが、憩いの場にしたらもっと人がくるのではないかと。思う。

(亀田委員)

- ・ 多摩川博2010でフォトコンテストや絵手紙、短歌の作品を見て、ぜひ参加させていただきたいと思った。
- ・ 私は幸区に住んでいるが、船着場の復活を希望している。復活の可能性はあるのか。

(事務局)

- ・ 船の行き来については今まで試験的に経済局のほうでやっているが、それが定期的に運行してできるようになるかというのはまだわからない。川の深さの問題もあるし、航路との関係もあつてなかなか難しい。

(亀田委員)

- ・ 水洗トイレをぜひ導入してほしい。それと、階段が急であるので、手すりが欲しいと思う。

(事務局)

- ・ 水洗トイレの要望は確かに多いが、河川敷に下水管を敷くためには堤防に穴をあけなければならないため、非常に難しいので、現在は、簡易水洗トイレという見た目には水洗だが、その下にタンクがあってそこに一時的にためて、後に汲み取るというタイプのトイレを導入している。ほぼ水洗トイレとかわらないものの導入を進めているところである。

(安原委員)

- ・ 私はプランの策定から参画しており、もう3年目だが、いろいろな事業が着実に進んでいるな、器はできてきたのだなという印象を受けた。
- ・ 先ほどから話にもでていますが、広報活動というか情報発信に力を入れてもらいたいと思った。前にも、マラソンコースを走っていたら、コロンビアの先のところがいつの間にか走れなくなっていたことがある。しかし工事の情報はホームページ上を探しても出てこなかった。また、子供が学校で水辺の楽校の話聞いてきたので行きたいと思ひ、いろいろ探したがどうすれば参加できるかがよくわからなかった。どう調べたらいいのかよくわからないので、情報の集約の仕方や発信の仕方をもう少し考えてもらえたらと思う。
- ・ 環境学習については、子どもに学校の環境学習の話聞いても、生田緑地に行った、等々力緑地に行ったという話はきいても、多摩川に行ったという話はあまり聞かない。多摩川に近い小学校でも行かないのかなと素朴に疑問に思ったりする。小さいうちから川に触れることによって、環境問題に気がついたり、いろんな気づきがあると思う。その気づきが大事だと思う。小さいころから触れるということが大事だと思うので、子供向けの学習の機会をもっと増やしてもらえたらいいと思う。それも広い意味での情報発信だと思うが、これだけいろいろなことをやっているのだからもっとPRしたらいいと思う。

(進士委員長)

- ・ それでは元永所長からは、情報提供も交えて意見をお願いします。

(元永委員)

- ・ 多摩川は大都市というか、日本の中心を流れていて、河原がある川らしい川としては日本一ではないかと思う。利用者も年間1,600万人以上ということで、利用者も日本一だと思う。
- ・ 先ほどから情報発信という話が出ていたが、情報を取り上げてもらうにはスポットをあてる必要があると思う。例えばだが、2010年は二ヶ領用水が竣工400年を迎えるなので、2010年のイベントはこれと関連づけてやってみるなど、年毎にわかりやすい、

親しみやすい形をとったらどうだろうか。そうするとマスコミもいろんな取り上げ方をするだろうし、記念行事のなかでもいつも多摩川が出てくるのではないかと感じた。

- 今日の集まりは推進する立場なので、その中にマスコミも入っていただけたらと思う。
- 企業の話があったが、企業が社会貢献をしていくというのは、企業ブランドの向上に役立たないといけないので、企業にとってもっとメリットがある形にならないと難しいと思う。京浜工業地帯の夜景の話があったが、あれは予約で満杯だそうだ。ビジネスとして上手くいっているのだらうと思う。
- どこにアクセスすればいいのかということについては、多摩川の相談するところというか、例えばその一つが多摩川施策推進課で、ここに聞けばなんとなくわかるとか、またはせせらぎ館に行ってみればなんとなく相談に乗ってくれるなど、ITも大事だが、顔が見える場所というのも大事だと思った。
- 川崎駅の河川情報板は、本来防災のときにパッと情報が出せるように設置してあるものだが、それ以外のときは自治体におおいに使ってもらいたい。
- 先ほどの二ヶ領の話や多摩川学習のカリキュラムの話もそうだが、象徴的な取り組みについて、リーディングプロジェクトもそうだが、川崎市というかたまりを越えて、例えば上流とのつながりにも焦点をあてていただきたい。例えば水は上流の山梨県から来るが、上流では、水を下流の方々にもきれいな状態で使っていただくためにいろいろな取り組みをしている。しかしこの取り組みが新聞で紹介されるのは山梨県側である。こういう取り組みが川崎や東京側でも記事になるといいなと思う。
- 今日いくつか資料を配らせてもらったが、体制概要というのは、先日あった津波のときに、京浜河川事務所ではこのような体制をとったという報告書である。験潮所のデータを見ながら、予想される波やそれに対する対応をとり、具体的には安全に川を利用してもらうために水門の調節をしたり、河川パトロールを行い利用者に対して声がけをしたり、ホットラインを活用したり、ホームページや河川情報板の活用をしたりしたところである。環境学習のカリキュラムを作る際には、こういう防災に絡めて、多摩川の治水の歴史や防災の歴史を知ってもらえたらと思った。
- もう一点の資料はにぎわいのある河畔空間の促進ということで、これは広島を流れる原爆ドームのそばの大田川や道頓堀で、オープンカフェや船着場などいろいろなことをやり始めているという例である。こういうことはなぜできるかということ、社会実験、特例措置という形で行っている。川は長い間培われてきた歴史の中で利用されているので、治水上だとか利水上などいろいろな秩序を保ちながらやってきている。そういうなかで新しいことを行うにはなかなかハードルが高いと利用者側からはみられるが、逆にいうとそういうことがあったから、大都市の中で自然が豊富な植生が守られてきたともいえる。河川法というのは頭の固い法律で、いわば時代遅れの法律ともいえるが、だからこそ川が守られてきた。高度成長期には多摩川に蓋をかけて道路にしてしまえといわれたこともあったが、川を守る側の人間は、時代遅れといわれながらも守ってきた。そういうことがあったから、日本ではじめて多摩川の中で生態系を保持する空間をうたって、守っているということがある。そこで、何か新しいことをする前

には、制度として使う前に、社会実験で施行して検証してみようという枠組みを作った。新しい取組を行うには、地域の合意が図られていること、河川敷の利用に公平性が確保されている仕組みがあること、それから占用施設の適切な管理運営が将来にわたって確保されていること、この3点が確保されていることが必要である。多摩川はかつて管理を東京都から譲り受けたときから、いろいろな利用がされているおり、その一つがゴルフ場であったり競馬場であったりするが、それらは昔からの既得権であるからできるのであって、これから新しいことをするのは難しい。そこで、地域の合意があって公平性がある適性な管理ができるということであれば、これから社会実験という形でいろいろとできそうということである。一つはバーベキューもそうかもしれない。ここはバーベキューをする空間だということで地域の合意が取れて、管理がきちっとできて、さらに料金を取ることもできる。その料金の、営利を目的とすることではなくて、河川の美化だとかいろいろなことができる。これが、すでに広島や大阪でやられていることで、こういったこともこれからの河川の利用の中ではあるのかなと思う。

- ・ 先ほど水洗トイレの話があったが、なかなか対応するのは難しいところがある。せっかく都市の中の貴重な自然であるのだから、自然に出るときにはある意味自然に出るときのマナーというのがあるので、一般的に都市の生活で使っている便益を川の中まで求めるのかという議論をした上で、水洗化という議論もされていると思う。どうして水洗トイレをつけないのかという理由も、みえる化していったほうがよいのでは。階段や手すりの話もそうで、堤防を管理する上では階段や手すりはほとんどつけないが、川を利用する立場では、神奈川県や川崎市が堤防の上の利用をするということで占用許可を受けて階段の整備を行うという形になっている。
- ・ 我々は利用サービスもしたいが、前回の事業仕分けでそれは国の仕事ではないと厳しく指摘をされた。例えば、国では堤防を年に2回点検しており、そのために草を刈るのだが、草刈の要望が多いのでこれまでは年3回実施してきた。しかし、草刈は堤防点検のための仕事だからということで事業仕分けの結果、来年度からは2回に減る。これに対していろいろな苦情がくると思う。でも、そういうこともいろいろな人に見てもらいたいと思う。
- ・ 防災のこととか河川管理のこととか、そういう見えない部分も基本方針の7に書かれている参加と協働による川育ての部分につながっていけばいいなと感じた。利用ルールだとか、マナーを向上させる仕組みとかは、情報共有にも繋がっていくと思う。
- ・ 多摩川を見ていて、将来の課題として思うのは、多摩川沿いにはずっと道路（多摩沿線道路）が通っていてわたるのも大変だしUターンしようものなら大変なことになる。安全に利用できるような道路やまちづくりとの関連も今後見据えて行ったらどうだろうかと思う。

(進士委員長)

- ・ そのとおりで、小田急線の登戸の駅は多摩川の真上に駅があるのだから、出口をそのまま多摩川に下ろせばいいじゃないかと思っていたのだが、小田急に誰も言いに行か

なかった。ペDESTリアンデッキというのはそのためにあるので、本当は内陸の公園や学校から道路を横断しないでいけるようになればいいと思う。

(元永委員)

- ・ 今御幸公園のところでは、多摩沿線道路をボックス（地下）にして、スーパー堤防にする計画がある。川崎市ではあれが最初に、完全に渡れるようになる場所ではないだろうか。
- ・ 世田谷では二子玉川の再開発のところなどもあり、そういうところは今後少しずつ増えてくると思う。
- ・ 川の中に直接降りるというのも、こういう社会実験の枠組みを使って、地域での合意があれば、私は、可能性がないことはないと思う。

(進士委員長)

- ・ 社会実験としてそれはいいかもしれない。大田川のオープンカフェというのは多摩川の雰囲気とはちょっと違うのかなと思うが。
- ・ 多摩川沿川の企業という話だけれど、このプランでは川崎市内はすべて多摩川沿川と位置づけているので安心してご協力をお願いしたいと思う。
- ・ 河川情報板には「今週の多摩川」として、櫻木さんたちが撮った写真を表示したらどうだろうか。今多摩川に行かなくても多摩川の様子がわかっていいと思う。川崎駅の名物になるかもしれない。イベントの案内に活用しても良い。多摩川の知名度も上がるだろうし。

(山道委員)

- ・ 社会実験は発想として非常に良いと思う。たとえばせせらぎ館の管理運営にしても、行政委託だといつまでできるかわからない。そこで社会実験というのは、地元の合意だとかいろいろ課題はあるけれども、NPO の活動を維持するための手法のひとつと出来ないだろうかと思うので、是非実現してもらいたい。

(進士委員長)

- ・ 社会実験は国が主体で行うのか。

(元永委員)

- ・ 河川法のルールだといろいろなことが決められているので、それを緩和する施策として社会的実験を占有許可するもので、自治体や協議会が行う。やはり最初は自治体が入らないと、誰もかれもということになりかねないし、合意形成も非常に難しい。

(進士委員長)

- ・ 味の素主催のバーベキュー会というのはどうか。

(元永委員)

- ・ バーベキューについては、一時使用でやっていただく分にはかまわない。きちんと片付けてゴミを持って帰っていただければ。ただ、二子新地は、みんなが一時使用で集

まってきたいるから大変なことになっている。

(進士委員長)

- ・ サーフ 90 を行ったとき社会実験という言葉を使ったが、一般の人から「実験に使われるのか」と反発があったが、今では社会実験という言葉が馴染んでよかったと思う。

(元永委員)

- ・ ETCの取り組みなどはまさにそうだと思う。

(進士委員長)

- ・ それではそろそろまとめに入らなければならないが、2010年度の方向性は、今日教育や広報の強化とか、事業のストーリー性とかいくつか意見をいただいたから、それで考えていくということでもいいか。

(事務局)

- ・ 来年度行う予定のリーディングプロジェクト見直しの中で、本日いただいた意見をどう活かせるか内部で議論したいと思う。その中から活かせるものは活かしていきたい。

(進士委員長)

- ・ 河川情報板にも、「今日の多摩川」は難しいと思うので「今週の多摩川」というのを是非進めてもらいたい。あそこを通るサラリーマンが、毎週の変化をみていろいろな楽しみになってくれたらいい。そこに、水質とか生物写真も入ったらいいのではないか。

## 5. 閉会

以上